

現世人類のルーツは6万年前のアフリカ 遺伝子を調べてみると……



第78回八丈島民大学講座

2月17日(火)・18日(水)午後7時から、七島信用組合八丈島支店2階ホールで、第78回八丈島民大学講座が開催されました。

講師は、遺伝子から人類のルーツを探る研究の第一人者、国立科学博物館の篠田謙一副館長。第1日目は約20万年前のアフリカで誕生した現生人類が世界各地に広がっていく過程を学びました。6万年前にアフリカを出たときには同じ体格・能力を持っていた人類は、各地で他の人類(たとえばネアンデルタール人など)から遺伝子を受け継ぎながら、自然や文化的環境に適応するための選択をくりかえし、拡散していく過程で、選択の結果が肌の色や文化の違いに現れたということです。

第2日目は「DNAが語る日本人の成り立ち」がテーマ。アフリカを出て東アジアに到達した人類の一部が、中国大陸南部や沿海州方面を経て、約4万年前から日本列島に渡って縄文人となり、3千年ほど前に稲作農耕民が渡来(弥生人)し、これらの集団が混血して現代日本人になったと考えられるということでした。八丈島樫立・倉輪遺跡の縄文人骨は、DNA解析ができる状態ではないので、今後の発掘が期待されるそうです。

【参加者の声】

- ・「日本人は単一民族という意識だったが、いろいろなところのDNAが入っていることが知れた。」男性・60代
- ・「人類の歴史を1年間365日にたとえると人の一生80年は18時間に相当するというのは、とても分かりやすかった。先祖に感謝をして、これからの時間を大切にしたいと感じた。」男性・30代
- ・「縄文人と弥生渡来人が混血して日本人ができたことがわかりました。日本人も地域によって違いがあるというのが興味深かったです。」女性・60代
- ・「人類の起源が人種差別などの問題にもかかわること、大変興味深く思いました。」女性・60代
- ・「膨大な研究の成果を用意してくださった厚いレジュメでよどみなく説明して下さって、贅沢な時間を提供して下さいと思います。こわいぐらいの解析の現状を少し知りました。2日間を通じて思うことは、ルーツは一つ、世界は一つと思える根拠として認め合える人類であるといいなと思いました。」女性・60代

■2日間の受講者は、のべ107人。

■詳しく学びたい方は ⇒ Webページ「中高生と”いのちの不思議”を考えるー生命科学DOKIDOKI研究室」『DNAで探る日本人のルーツ』をご覧ください。
(運営委員会 事務局 伊藤)

3月・4月のイベント予定について

※新型コロナウイルス等の影響で、各種イベントの開催状況が変化するため、今号はイベント予定の掲載を見送ります。

協会の主催・後援イベントについては協会ホームページおよび「Faxメール通信」をご参照下さい。

お詫び

前号(31号)掲載の芸能文化祭の記事中、文末が切れてしまいました。「島内各団体の方の」に続き、「演技を是非見に来ていただきたいと思います。」を追記し、お詫び申し上げます。

八丈島文化協会 会報 第32号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2020年3月10日発行

第31回八丈島文化フェスティバル開催

第31回八丈島文化フェスティバルが1月19日(作品展部門は1月12日～)、舞台部門15団体、作品展部門12組が参加して、八丈町多目的ホール「おじゃれ」と町民ギャラリーで行われ、両部門合わせてのべ900人にご来場いただきました。

今年は、出演団体、出展者を中心に実行委員会を結成しました。新体制になったことで、新たな視点やアイデアが加わり、これまで以上に充実した内容になるとともに、参加者同士の交流も生まれ、「島の文化愛好者の発表の場であり、交流の場である」という文化フェス本来の姿に近づけたように思います。

本番にむけての練習や作品作りがある中、知恵を出し合ってフェスを作り上げていただいた実行委員の皆様には心より感謝しております。また、出演団体、出展者のみなさまのご協力のおかげで、スムーズな舞台発表、作品展示ができましたこと、主催者を代表してお礼申し上げます。

文フェスは大勢の方のご協力とご支援があって、はじめて成立するイベントです。協賛広告企業の皆様、八丈町をはじめとする後援団体のみならず、そしてご協力いただいた舞台スタッフ、司会者、当日スタッフの皆様、文化フェスに関わるすべての皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。
(八丈島文化協会事務局長 山下久美子)

(舞台部門フィナーレ)

(展示部門)



舞台部門の写真は、八丈高校写真同好会のご協力によるものです。





中止

子どもたちが輝く第7回芸能文化祭 コロナウィルス発生のため

第7回芸能文化祭は、従来のような大人中心による発表ではなく、後継者育成ということで、保育園から高校生までの子ども達が、島内で行われている郷土芸能団体の練習などに参加した、その内容や成果を発表する場として、3月15日に町おじゃれホールで開催する予定にしていました。

しかし、コロナウィルスの発生を受け、全国の小・中・高校が休校になるなどの事態が起きていることを考慮し、開催が困難と判断し中止することとしました。

準備も進み、直前となった中止で残念ですが、来年度も開催する予定ですので、引き続き皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

昭和57年会 落語上演

協会の後援事業として、落語会「昭和57年会 IN 八丈島」が11月27日、多目的ホール「おじゃれ」で開催されました。笑福亭べ瓶、三遊亭好の助、三遊亭歌太郎、春風亭昇也、立川こはるの5人の若手落語家が出演し、それぞれの持ち味を生かした芸を披露しました。来場者100人に、大好評でした。



ボヘミアン・ラプソディ上映会

あびの実映画会「ボヘミアン・ラプソディ」(あそびと文化のNPOあびの実主催、協会後援)が12月14日、多目的ホール「おじゃれ」で開催され、261人が来場し、話題の映画を楽しみました。



文化協会の活動へのアンケートの結果などから(報告)

2020年1月に実施した、文化協会の会員アンケートの結果にかかわってお知らせします。なお、アンケートに提出された内容や協会からのコメントは、別紙でお知らせします。

①会員交流会については、10件の希望があれば実施するというアンケートをしましたが、4件しか希望がなかったため、今回は実施しません。

②富士見地区公会堂の利用料金については、従来1回(最大5時間ぐらい)200円でしたが、公民館が有料になったこともあり(町の指導もありますが)300円に値上げすることにしました(役場との折衝も必要なので、文化協会の総会後から実施)。

③公会堂の会議室については、申し込み順ではなく、会議で使用する団体優先で利用を図ることにします。4月1日から実施します。

来年の第32回八丈島文化フェスティバルは1月24日に実施します！

2月初旬の実施を検討しておりましたが、他行事との兼ね合いで2021年1月24日に開催することになりました。来年もご参加お待ちしております。